



南陽小学校だより 「いい顔 いい声 いい心」 NO4

発行：令和3年6月2日（水） 文責：校長 野田 浩司

南陽小学校 HP：<http://www.nagasaki-city.ed.jp/nanyo-e/>



☆「静」をつくる

昨日はリモートによる全校集会で、「静」をつくることの大切さについてお話ししました。学校というたくさんの方がいる空間の中では、みんなが協力しないと「静」の時間は作ることはできません。みんなで協力して「静」を作ることができれば、次に行くことに対しての全員の集中力が高まってきます。

南陽小学校では、登校してランドセルの整理をしたら、まず運動場に出て遊びます。体を動かすことで、脳を活性化させる「動」の時間です。4年生の先生から話を聞いたところ、4年生の朝の教室は、みんなが遊びに行くので、誰一人残っていないということでした。

そして、朝遊びが終わったら、8時5分からの読書の時間に「静」の時間をみんなで作り出します。10分間の朝の読書においては、まさに全員が無言で本に集中します。読書をしながら、自分自身の心を落ち着けているのです。

長崎県が提唱する「学力向上のための三つの提案」の中に、「学習規律と支持的風土の醸成により子供が安心して学べる授業」という項目があります。南陽小学校では、学校規律として「静」をつくりだすという取組を行い、子供たちが安心して学びに向かうことができるようにしていきたいと考えています。

☆全国学力・学習状況調査や県・市学力テストが実施されました。

＜南陽小学校ホームページ「校長のつぶやき」 令和3年5月27日 NO34より抜粋＞

今日は、6年生が全国学力・学習状況調査、5年生が長崎県学力調査、3・4年生が長崎市学力調査を受けました。昨年度はコロナ禍のため実施が見送られたため、全国学力・学習状況調査と県学力調査は2年ぶりの実施となり、報道でもたくさん取り上げられていました。

どの学級においても、問題と真剣に向き合う子供たちの姿が見られ、大変うれしく思いました。もちろん、苦戦している様子も見受けられましたが、今後、しっかりと検証、分析をしながら、子供たちの学力向上につなげていこうと思っています。私も、これらの問題を解きましたが、記憶した知識を単純に問う問題はほとんどなく、これまで身に付けた力を関連付けて考えたり、複数の資料から必要な情報を取り出しながら結論を導いたりするものがほとんどでした。つまり、暗記中心の知識詰め込み型の学習ばかりでは対応できないということを私たちはしっかり認識しなければならないということです。子供たちに達成感、成就感を味わわせながら、学ぶ意欲や活用力につなげていきたいと思っています。

学校と家庭で連携しながら、南陽小の子供たちの力を伸ばしてまいりましょう。

